

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ふくしまけんりつふたばみらいがくえんこうとうがっこう				②所在都道府県	福島県
27～31	①学校名	福島県立ふたば未来学園高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	総合学科	
総合学科	125	125	125		375		
⑥研究開発構想名	原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	原子力災害からの復興を果たす人材を育成するため、アクティブ・ラーニングを効果的に導入し、グローバル・リーダーに求められる思考力・判断力及び発信力・チーム力の育成を図る教育課程を研究する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>原発事故に関する調査を通して、多角的・多面的に捉える力を育てる。また、復興を模索することを通して、思考力・判断力・創造力を身につけさせ、復興の方針と実行するための手段を世界にアピールすることで発信力・チーム力を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>生徒の多くは原発事故からの避難を余儀なくされているが、地震や津波、原子力災害からふるさとを再生し、復興を成し遂げたいとの強い思いを持っている。このため、福島県内の環境関連、産業、農業関連施設での研修、国内外での研修を通して、復興に関する諸問題の解決方法を考察することにより、思考力・判断力・創造力を育成することができる。関係自治体や国の行政機関への提言、海外での発表を通して、発信力・チーム力を育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>研究論文や報告書を作成し、広く配付する。研究成果発表会を開催し、連携中学の生徒や地域住民に成果を伝える。関係教育機関と共有し、復興人材育成を先導する。県教育センターや福島大学と連携した教職員研修等を通して、教育課程を広く普及させていく。</p>					
		⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ 原子力災害からの復興に関する研究</p> <p>-グローバルな視点からのふるさと創造を目指して-</p> <p>福島県及び企業・関係団体と連携し、「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について、同種事例なども参考にしつつ、研究・検証し、グローバルな視点から地域再生、ふるさと創造に関する提言を行う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>ア 実施方法</p> <p>教育課程に位置付けられた1年次の「産業社会と人間」2単位、2年次の学校設定科目「アカデミック」「トップアスリート」「スペシャリスト」の中から1つ選択する2単位と2・3年次の「総合的な学習の時間」5単位の合計9単位で実施する。</p> <p>生徒は、1年次後期から研究テーマとして、「原子力防災研究班」「再生可能エネルギー研究班」「メディア・コミュニケーション研究班」「アグリ・ビジネス研究班」「スポーツと健康研究班」の5つの班に分かれ、さらに4～5名ずつの小集団を編成し、課題研究に取り組む。</p> <p>課題研究と同時並行して、2年次の学校設定科目により、専門的知識を習得し、課題研究に生かす。</p> <p>アクティブ・ラーニングや研究成果発表を通して、生徒の思考力・判断力・創造力等の育成を図る。</p>				

	<p>教員の指導体制については、校内にSGH推進委員会を設置し、委員を中心に教職員一丸となった指導を行う。</p> <p>外部との連携体制については、福島県知事部局、双葉郡教育長会、福島大学、JICA、地元企業、海外機関と連携関係を構築する。</p> <p>海外研修では、現地諸機関と連携を密に行う。</p> <p>&lt;1年次&gt;「産業社会と人間」2単位において、地域の課題について学習する「ふるさと創造学」を実施する。また、グローバルな視点を持たせるため「JICAグローバル・ユース・キャンプ」に参加する。後半は、5つの研究班（原子力防災研究班、再生可能エネルギー研究班、メディア・コミュニケーション研究班、アグリ・ビジネス研究班、スポーツと健康研究班）に分かれ、小グループごとに課題研究を始める。</p> <p>冬季休業中には、リーダー研修として、タイを訪問し、地域から海外に進出した企業で研修することで起業について学習する。地方創生イノベーションスクール2030と連携し、ドイツを訪問し、学校等と協働していく。</p> <p>&lt;2年次&gt;「総合的な学習の時間」2単位で課題研究を継続する。学校設定科目「アカデミック」「トップアスリート」「スペシャリスト」において、自己の具体的な課題や将来の目標を適切に設定するために必要な知識を身に付け、課題研究に生かす。</p> <p>アメリカへのリーダー研修において、スリーマイル島原子力発電所事故の影響や原子力災害からの復興の取組について理解を深める。</p> <p>&lt;3年次&gt;「総合的な学習の時間」3単位で、5つの研究班をさらに細分化し、1、2年次の課題解決型学習で得られた成果を基に個人研究を進める。原子力災害の克服に関する研究成果をまとめ、学術研究会での発表や、自治体に対して提言を行う。</p> <p>イ 検証評価</p> <p>大学関係者・有識者の委員からなる「運営指導委員会」により成果を検証、評価する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>学校設定科目「アカデミック」「トップアスリート」「スペシャリスト」を2単位設定し、系列に合わせて1科目選択する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>JICA二本松訓練所と連携し、「青年海外協力隊が見た世界（教育）（スポーツ）（農業）」に関する外部講師による講義を受講して、国際理解を進めるとともに、表現力を育成するため、「ふたばの教育復興応援団」による表現力養成講座を受講して、JICAエッセイコンテストに応募する。</p> <p>研修旅行で島根県立隠岐島前高等学校を訪問し、過疎や少子高齢化など我が国の地方が抱える共通の課題を把握し、お互いの住む地域の課題を解決する糸口を探るために発表、交流を行うとともに、グローバルな視点から課題解決を図る資質を養う。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> なし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程以外の取組内容・実施方法</b></p> <p>県の「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」を活用し、海外ホームステイ研修の旅費の一部を支援する。</p> <p>部活動として、社会起業部を作り、高校生のための週末オープンスクールに参加し、構想力・プレゼンテーション能力・他者を巻き込む力を育成する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成27年4月から開校する新設高等学校。</p> <p>双葉郡の11中学校と連携する連携型中高一貫教育校。</p> <p>緊急時避難準備区域が解除された双葉郡広野町に双葉郡唯一の高等学校として開校し、休校予定である双葉郡の5つの高等学校の特色を併せ持つ。</p>

ふりがな	ふくしまけんりつふたばみらいがくえんこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	福島県立ふたば未来学園高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	375人
	SGH対象生徒以外:	人	人	人	人	人	人	人	90人
目標設定の考え方: ボランティア活動や研修会に参加する生徒数。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	人	人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 各種制度を利用して海外研修に参加する生徒またはホームステイ等に参加する生徒数									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	%	%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 上級学校で留学を考えるまたは海外で活躍できる職業に就きたいと考える生徒の割合。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	人	人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 公的機関、大学、民間企業が主催する各種コンテストで入賞する生徒数。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	%	%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英検2級又は準1級に合格する生徒の割合。									
(その他本構想における取組の達成目標)世界や社会の動きに関心を持ち、復興を成し遂げる人材になりたいと考える生徒の割合									
f	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: スーパーグローバル大学(タイプA、タイプB)へ進学する生徒の割合。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校卒業後にダイレクトに進学する生徒と留学先から海外の大学へ進学する生徒数。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究のなかで培った生徒の興味・関心を大学でも続けていきたいと考える生徒の割合。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 各大学の留学・海外研修制度等を活用して海外へ行く卒業生の数。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 自校の主催する海外研修と他団体の主催する海外研修に参加する生徒数。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	人	人	人	人	人	人	360人
目標設定の考え方: SGH対象全生徒								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 課題研究に関しての情報・助言の提供等で連携する大学・高校等の数。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 課題研究に関して行う各種研修会、研究会等に大学等の外部人材が参画した延べ回数。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 課題研究に関して行う各種研修会、研究会等に企業または国際機関等の外部人材が参画した延べ回数。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	人	人	人	人	人	人	360人
目標設定の考え方: JICAエッセイコンテストへの参加。課題研究の成果を発信するための大会に参加した生徒数。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: ショートステイを含めた帰国・外国人生徒の受入れ者数。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	回	回	回	回	回	回	4回
目標設定の考え方: 課題研究の成果を世界に発信する。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							○
目標設定の考え方: 海外への情報発信の手段として更新していく。								
(その他本構想における取組の具体的指標)英語で意見を発表できる生徒の数								
j			人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 課題研究の成果を海外において英語で発表できる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			152	310	465	465	465
SGH対象生徒数			125	250	375	375	375
SGH対象外生徒数			27	60	90	90	90